



(株)東毛造園土木
高橋 俊之

創業は昭和30年、私の祖父が苗木の生産販売等をしたのがこの仕事の始まりです。

最初は生産・販売が主で、時々個人の庭作りや管理をするくらいでしたが、昭和63年に先代が法人化し、公共工事等の仕事も始めるようになり、その頃から事業が拡大していきました。

当時私は高校を卒業し都内の造園の専門学校で2年学び、造園会社に入社、4年勤めた後、自分の会社に戻りました。現在は先代が築きあげてくれた実績を基に公共工事・民間工事など造園に関するあらゆる工事を行っています。

今後の課題としては、技術者の高齢化により作業員が減少してくる状況にあり、若年入職者の減少が進行して、世代交代により技術の継承があやふまれるので優秀な技術者の確保・育成できるような環境を作っていこうと思います。



がんばれ 後継者!!

今回、後継者紹介という事なので私のことを少しお話したいと思います。地元群馬に戻りはや12年になります。先代から事業を継承し、現在は建物の外周りのデザインからエクステリア工事、造園、花を植えるまでを生業にしております。前職では再開発による街並み景観の設計、現場監督を経験して参りました。

時代のニーズにどの様に対処していくか日々考える毎日です。そんななか、最近特に思うことがあります。それは、公園のリニューアルは「私達の仕事だ」ということです。既存の街区公園などは特に利用者の年代も含めニーズが変化し、樹木は大きくなりすぎ日陰をつくり、景観改善が必要と思われる公園が増加傾向にあります。行政から指示されたことだけするのでは無く、造園の技術を活かした景観提案をできるのは私達であると思うのです。団塊ジュニア世代の私達は大都市圏で多くの公園工事全般(土木



を含む)の現場経験を踏んで地元に戻って来ました。まさに今活躍するチャンスなのです。このままだと新人に技術を継承することも出来ず、造園業から植木屋に成ってしまいます。行政的に我々の業界が必要だと思うのであれば、是非試験的にでもチャンスを頂ければ幸いですと感じるこの頃です。



前橋園芸(株)
中村敬太郎

Title

本来の仕事

Memo

「環境改善」ってやるべき事がいろいろ有りとても情報が溢れていて、どれが正しくて何が良いか難しい。

情報全般に有りがちな流行で注目される事も、しばらくすると忘れられることが多いのです。「環境問題とか大震災までも！」

造園屋さんも環境とか災害にも関係する仕事をしています。

植物を植えたり剪定する、この2つの作業で環境悪化を抑制できます。最近私は、自然再生士の勉強をしました、結論は本当の自然は再生できません！では何の為の自然再生かと言うと人間が関与した空間の自然再生です。里山や公園や住宅庭園に加え工場跡や河川構造の自然化が主な対象です。自然を手本に自然に近い物を運営する事が自然再生です。

微生物・虫・魚・植物・鳥・動物の順に多く生

町の庭師の手帳より

息する必要がある生態系ピラミッドです。そこに一番邪魔な存在が人間ですが、「地球環境も良く成りそうもない！」でも邪魔にされても生きたいですねー！少しでも身の回りから環境改善して他の生態の負担を減らしていくべきです。そこで町の庭師を使いましょう。

道路・公園・お庭で枝葉が落ち邪魔なので撤去する仕事が増加し、庭師が環境破壊の仕事をしています。本来庭師の仕事は自然を手本に日本庭園や植物のサイズを長期間維持する剪定作業する仕事です。植栽は気温を大幅に下げますよ！例えば地面をグランドカバーの芝生や地被植物で隠すと土や舗装が70度位まで上昇する温度が気温程度で止まり、夜も気温と同じです。落葉高木は夏の日差しから気温の上昇を抑え、冬は葉っぱを落として日差しを通し気温を上げてくれます。ここまで高機能な環境改善アイテムを邪魔に思っではいけない。ぜひ庭師に本来の仕事環境改善をさせてください。町中に庭園があると自然再生された生態系が戻ります。

(群馬県申園(株)・山口 雄資)



この度、荻原前会長及び釘島顧問の発案で、群造協ゴルフ部会が11月の理事会にて正式に承認されました。

かつて、平成10年までは当時の山田副会長を中心に年間2~3回開催され、特に会員のメンバーにはゴルフプレー上級者が多数いて大変盛んでしたが、ここ数年来景気の影響か？自然消滅してしまいました。しかし一部の会員からは、会員相互の交流も含めたゴルフ部会の復活の声もあがっていて実現した次第です。

新部会長には、川原田総務委員長が就任。会員の皆様是非とも振るって参加下さいますようお願い申し上げます。(株)群馬清風園・木暮 一広

